

令和7（2025）年度 家庭教育支援プログラム指導者研修③ 実施報告

実施日：令和7（2025）年7月16日（水）

○ 説明・演習「コミュニケーションの技法」

下都賀教育事務所ふれあい学習課 社会教育主事 河原 千枝

家庭教育支援者に必要なコミュニケーションの技法について説明がありました。コミュニケーションを図る上で、言葉以外の情報（表情、態度、声の調子など）が大きな役割を果たすこと、「伝えたいことが正確に伝わる状態」が理想であることが示されました。受講者は、自分の思いや考えを正確に伝える力に加え、相手の思いや考えを正確に受け止める力の重要性を学びました。

アサーティブな表現では、相手も自分も大切にする伝え方を意識することの重要性が強調され、リフレーミングではネガティブな表現をポジティブに言い換えることで、状況の受け止め方を柔軟にする技法が紹介されました。これらの演習を通じて、今後の活動に生かせるコミュニケーションへの理解を一層深めることができました。



○ 説明・演習「ファシリテーター演習に向けて」

総合教育センター職員

家庭教育支援プログラムを効果的に実践するために、家庭や子どもを取り巻く環境や参加者のニーズ、時間や場所など、実情に合わせて既存のプログラムを再構成することが考えられます。次回の演習では、実際にファシリテーターとしてプログラムを展開していくため、グループで協力しながらプログラムの再構成を行いました。

受講者は、与えられたテーマと対象に合わせて、プログラムのねらいを達成できるように、エピソードの内容を考えたりワークの数を調整したりしました。

「主語は参加者である」ことを忘れずに、意見を出し合う様子が見られました。



☆ 受講者の声（アンケートから）

- ・コミュニケーション方法に関して、話す方ばかりでなく聞く方も重要なのだと改めて実感しました。
- ・コミュニケーションの技法はすぐに使いたい内容で、特にリフレーミングは、家でも学習して身に付けたいと思いました。
- ・コミュニケーションの取り方はすぐ実践できそうな内容で練習は必要そうですが、日常の中で意識してコミュニケーションを取っていきたいと思います。午前の演習の影響か、プログラムの再構成の際に、とても楽しくそれぞれが思ったことを言い合える雰囲気でした。
- ・プログラムの立て方、進行など参考になりました。自身の持つ資格を活かしながら、講座を行いたいと考えており、それに生かそうと思っています。



研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206 e-mail:skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp